

MENSION ステートメントと DO 関係およびステートメント関数定義式に限られている。どのような事態が発生しても驚きはしないが、処理時間が問題になる。したがって、この種のものに関しては、多少の制約があってもかまわないであろう。

最後に、この論文を書くに至るまでに直接ご指導いただいた慶応義塾大学工学部 浦昭二教授、およびシステムの開発に際し、ご協力をいただいた慶応義塾大学大学院工学研究科 大野義夫、石渡裕之、松本雅雄の諸兄および東京芝浦電気株式会社電子計算機事業部第二電子計算機課の諸氏に感謝する。

(昭和43年11月26日受付)

参考文献

- 1) 土居範久, 他: KEIO-TOSBAC タイムシェアリング システム 入出力制御とスーパーバイザ, 情報処理 Vol. 9 No. 2 3月号 (1968)
- 2) T. M. Dunn and J. H. Morrissey: Remote

- Computing-An Experimental System Part 1: External Specifications SJCC, 1964.
- 3) J. M. Keller, E. E. Strum, and G. H. Yang: Remote Computing-An Experimental System Part 2: Internal Design
- 4) 土居範久, 原田賢一: タイムシェアリング システムに関する研究, 慶応義塾大学大学院工学研究科修士論文 (1965) [未発表]
- 5) 中西正和, 中村御也: タイムシェアリング システム用コンパイラ, 慶応義塾大学工学部管理工学科卒業論文 (1965) [未発表]
- 6) 土居範久, 原田賢一: 入門タイムシェアリング システム, KEIO/TOSHIBA TSS. TR-2 (1967)
- 7) 土居範久: KEIO-TOSBAC タイムシェアリング システム, 情報処理月例会資料33 (1968)
- 8) Dartmouth College Computation Center: BASIC, June 1965.
- 9) 浦昭二, 土居範久: KEIO-TOSBAC タイムシェアリング システム, EDP アプリケーションハンドブック, 日刊工業新聞社 (1968).

会 員 の 声

一松氏の二進加法のプログラムについて

西 村 恕 彦*

本誌9巻3号160ページの二進加法のプログラムの説明に、「COMMON IA, IB でリンクする」と述べてあるが、この6805のプログラムも、そのもとの6801のプログラムも、IA, IB が共通ブロックにはいるという性質は、まったく利用されていないようだから、上記の文は取り除くべきでしょう。

ついでに気を回すと、この原著者は、「副プログラムにおいては、仮引数の英字名をCOMMON文に書いてはならない」という規約を、無用の制限として無視したがつているのではあるまいか。

(昭和43年10月2日受付)

西村氏の指摘に答えて

一 松 信**

私の作った二進加法のプログラムに関する西村恕彦氏の指摘 (COMMON IA, IB は不要) はまったくそのとおりです、別に深い理由があるわけでも、また制限を無視したがつているわけでもなく、COMMONの意味を誤解していたためです。もちろんこれは不勉

強と早合点のせいですが、独学で文法書だけで勉強した人間は、このような誤解をよくやるものです。だからこそ、中級ないし高級プログラミングの解説を、本誌あたりで積極的にとりあげ、我流のプログラムで非能率的な使い方をしている大勢のプログラムを再教育して下さることを強く希望するものです。

(昭和43年11月11日受付)

* 通産省工業技術院
** 立教大学理学部